

あつぎ郷土博物館NEWS7月号

鋭意
準備中

友好都市展「いとまんの文化と自然」② 遠くの隣人を知る 糸満展の意義

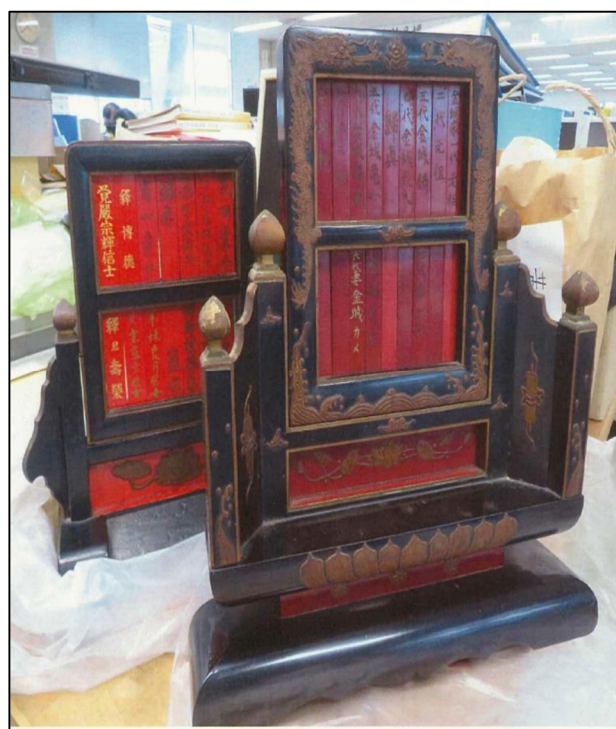
友好都市・沖縄県糸満市を紹介する「いとまんの文化と自然」が19日から開始となります。沖縄、糸満と私たちの住む厚木とはどこが違うのでしょうか。

海の有無だけではありません。例えば大きなお墓（門中墓^{もんちゅうぼか}）。ここからは彼の地の他界観、つまりあの世の考え方、先祖の祀り方などの精神文化、「門中」と呼ばれる親族集団の在り方、結びつき、それを支える経済なども見えてきます。

大きなお墓は、厚木にはありません。本展示会では、糸満と厚木の暮らし方、考え方の違いに驚かれることも多いかと思いますが、それは自分を知ることでもあります。友好都市展を開催し、遠くの隣人について、その文化、歴史を知ることには、そのような意味もあるのです。

先の門中ですが、「沖縄本島を中心とした父系親族集団」のことで、社会生活、先祖祭祀に大きな意味を持っています。かつては「息子のないときは、娘がいても彼女を婚出させ、父系血縁内の次世代以下から養子を組み入れ」ていたと伝えられています。この門中、現在は一般社団法人として運営されることもあり、依然として力を有しています。『日本民俗事典』によれば、門中は糸満をはじめとする沖縄南部の文化であり、門中のなかった中～北部にかけては新たに激増したものです。家族葬が増加する現在、注目される糸満の親族組織です。

19日には、川添裕子さんに「ハジチ」、沖縄の入れ墨についてお話をさせていただきます。何故、どうして身体装飾を施すのか、文化の相違と思いきや、歴史をたどるとどうなのか。展示とともに、講演会も楽しみにお待ちください。



▲トートーメー（沖縄、糸満の位牌）

●会 期：令和7年7月19日（土）から9月7日（日）まで

●入館料：無料 ●講演会、上映会参加費：無料（詳しくは裏面参照）

あつぎ郷土博物館 7月の予定

日	曜日	行 事 内 容	講師等	時 間
友好都市展「いとまんの文化と自然」7月19日から開催				
10	木	あつぎの古文書解読会 <参加自由>	古文書解読会 会員	13:00 ～16:00
17 ・ 18	木 金	臨時休館（友好都市展「いとまんの文化と自然」展示工事のため）		
19	土	友好都市展講座 沖縄の身体装飾ーハジチー <参加自由>	川添裕子氏 （松蔭大学教授）	13:30 ～15:30
24	木	あつぎの古文書解読会 <参加自由>	古文書解読会 会員	13:00 ～16:00
27	日	読んで書いてわくわく和田傳 <事前申込> 作家の作品から文章について学びます。 小学校低学年 10:30～正午/小学校高学年～中学生 1:30～3:30	白坂洋一氏 （筑波大学附属 小学校教諭）	10:30～ 正午 13:30 ～15:30
28	月	休 館 日		
30	水	友好都市展 記録映像上映会ー糸満の民俗芸能ー <参加自由>	担当学芸員	13:30 ～15:30
31	木	あつぎの古文書解読会 <参加自由>	古文書解読会 会員	13:00 ～16:00
* 25 日(金)～30 日(水)は、博物館実習生の実習を実施します。				

コラム
毛利氏

毛利氏とあつぎの関係とは？ その①

大江広元は、平安末期の貴族、鎌倉幕府の御家人です。広元は、朝廷に仕えていましたが、鎌倉へ下り、幕府の体制づくりに貢献しました。頼朝が右近衛大将となってからは政所の初代別当となり、主に朝廷との交渉に力を発揮しました。頼朝の死後は、北条政子や北条義時らと協力して幕府を支えました。

広元は、全国各地に所領を持っていましたが、下毛利荘もその内の一つでした。広元が下毛利荘を得た時期は不明ですが、「吾妻(東)鑑」によれば、建久5年(1194)8月8日に頼朝が娘大姫の病氣平癒を願い日向薬師を参詣した際に、下毛利荘で広元から「駄飼」(だしょう・弁当)を振る舞われています。建久5年までには毛利荘を与えられていたことが、ここからわかります。その後下毛利荘は四男季光に引き継がれました。



- あつぎ郷土博物館 開館時間 午前9時から午後5時まで(入館は午後4時30分まで)
休 館 日 毎月最終月曜日 年末年始(12/29～1/3)
- 古民家岸邸 開館時間 午前10時から午後5時まで(入館は午後4時30分まで)
休 館 日 月曜日と火曜日(祝日の場合は翌平日) 12/25～1/3



(申込み・問合せ)

あつぎ郷土博物館

〒243-0206 厚木市下川入 1 3 6 6 - 4 電話 046-225-2515

Mail 8650-3@city.atsugi.kanagawa.jp

FAX 046-246-3005